

## 富名腰義裕会長 会長のいんさぐて

# 子どもたちの今を支える

在宅医療を必要とする子どもたちのサポートを続けている。現在は、たん吸引器などの医療機器を80台以上所有し、無料でレンタル。日常生活を支えるだけでなく、サマーキャンプなどを開き、外に出る機会も提供する。ロコミで広まり、キャンプ参加者は当事者やボランティアアから総勢150人の規模に。小児科医の富名腰義裕会長

### 社会活動

(55)は「病院を出ると、子どもたちの表情はとても豊かになる」と目を細める。会員は医療・保健関係者を中心に福祉や教育関係者も名を連ねる。毎月第3火曜日には、制度を学ぶ課題を議論する小児在宅研究会を実施している。成人と比べて小児の医療や介護、福祉の制度はまだまだ不十分なのが現実だ。「難

病の子どもが生活を送るには、多職種連携が必要」と話す。昨年、活動に賛同するデザイナーの協力でロゴを作成した。赤いホウセンカの花をモチーフに、子どもを包み込む様子を表した。「一人一人が輝きながら今を生きられるように」と願い、子どもたちを支えていく。



病気の子どもたちの生活の質を高める活動をする小児在宅医療基金「ていんさぐの会」  
富名腰義裕会長 西原町のアドベンチアステメデイカルセンター

ていんさぐの会 1993年10月発足。重い病気の子どもの子どもたちが自宅で過ごせるよう在宅用人工呼吸器の購入のための募金を呼び掛けた。会員は約140人。難病の子どもの生活の質を高める活動を行っている。

# 第41回琉球新報活動賞